

三島の教育

平成28年度

(2016年度)

三島市教育委員会

ま え が き

近年、子どもたちを取り巻く環境は、生産年齢人口の減少、国際環境の激しい変化、学校の抱える課題の複雑化・多様化や地域社会の支え合いの希薄化等、多くの課題を抱えております。

文部科学省では、これらを克服するため、平成28年1月に「次世代の学校・地域」創生プランを策定したところであり、三島市においても、地域や三島の未来を担う子どもたちを育むため、学校、家庭、地域が連携して子どもを育てる地域ぐるみの教育を推進してまいりたいと考えております。

また、文部科学省は、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築などを定めた「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」を平成27年4月に施行しております。

三島市では、これを受け、本市の教育政策の方向性を明確にするため、3回にわたる総合教育会議を開催し、平成28年3月に「三島市学校教育振興基本計画」、「三島市生涯学習推進プラン」、「三島市文化振興基本計画」、「三島市子ども・子育て支援事業計画」の4つを柱とする「教育に関する大綱」を策定しましたので、それぞれの分野で特色ある施策に取り組んでまいります。

学校教育においては、「三島市学校教育振興基本計画」に基づき、「心の教育」を柱とし、昨今の教育課題を解消するために、「確かな学力の育成」、「生徒指導や特別支援教育の充実」、「命を守る学校環境づくり」に取り組んでいます。特に、「確かな学力の育成」の分野において、これまで継続して分析してきた三島の子どもたちの学力や学習状況をもとに、よい点をさらに伸ばすとともに課題を解決すべく方策を探っていきます。また、教員のおのおのがICT機器を有効活用することによって、子どもたちの学習への興味関心を高め、個の能力や特性に応じた学習や、子ども同士が教え合い学び合う協働的な学習を展開し、確かな学力の育成を図ります。

学校施設については、子どもたちが一日の大半を過ごす活動の場であり、また、非常災害時には地域住民の応急避難場所として、その安全性の確保は極めて重要なことから、毎年設備の点検を行い、補修整備を行っております。今年度は、耐力度の基準を下回っている北中学校南校舎棟について、平成30年4月の供用開始を目指して改築工事に着手します。また、教育の情報化を推進するため、昨年度の小学校への整備に引き続き、今年度は中学校の特別支援学級を含む全クラスへ電子黒板、教材提示装置、及び指導用デジタル教科書を整備します。

生涯学習に関しては、「三島市生涯学習推進プラン」に基づいた総合的な生涯学習の推進を図ります。また、地域ぐるみでの青少年育成のため、特に学校、家庭及び地域の連携協力推進事業に力を入れ、地域の皆さんに学校支援ボランティアとして活動していただく学校支援地域本部事業を市内全公立小中学校で実施するほか家庭教育支援事業を積極的に実施していきます。

文化振興に関しては、平成28年3月に策定した「三島市文化振興基本計画」に基づき、「創造力あふれる人とまち・みしま」を実現するため、3つの重点プロジェクトを中心に文化振興施策の推進に取り組んでいます。なかでも、市民文化会館を文化創造交流拠点として整備すべく、今年度は改修基本計画の策定作業を進めていきます。また、平成24年度から7カ年計画で進める山中城跡再整備事業は、今年度、本丸西堀・二ノ丸虎口土塁を実施する予定です。

さらに、図書館では、平成24年度から平成33年度までの10年間における子どもの読書活動を示した「第2次三島市子ども読書活動推進計画」が今年度中間年度に当たるため、計画の見直しを行い、改訂版を策定します。

ここに、関係各位のさらなるご理解、ご協力をいただけますよう、この小冊子を取りまとめましたので、ご教示とご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

平成28年9月

三島市教育委員会 教育長 西島玉枝

目 次

I 市政のあらまし

- 1 位置・地勢・人口…………… 1
- 2 沿革…………… 1
- 3 財政…………… 2

II 教育に関する大綱

- 1 三島市学校教育振興資本計画…………… 3
- 2 三島市生涯学習推進プラン…………… 3
- 3 三島市文化振興基本計画…………… 4
- 4 三島市子ども・子育て支援事業計画…………… 4

III 教育委員会

- 1 教育長及び教育委員…………… 5
- 2 教育委員会所管組織一覧…………… 5
- 3 平成 27 年度教育委員会及び
総合教育会議議題…………… 6
- 4 事務分掌…………… 7

IV 教育財政

- 1 平成 28 年度教育費予算（当初）…………… 10
- 2 年度別教育費の推移（当初予算）…………… 11
- 3 年度別教育費の執行状況…………… 12
- 4 園児・児童・生徒の人口に占める割合…………… 13
- 5 園児・児童・生徒 1 人当たり及び
人口・世帯割の教育費…………… 14

V 教育施設

- 1 学校要覧…………… 15
 - (1) 小学校…………… 15
 - (2) 中学校…………… 15
 - (3) 幼稚園…………… 15
- 2 学校施設…………… 17
 - (1) 小学校…………… 17
 - (2) 中学校…………… 17
 - (3) 幼稚園…………… 17
- 3 その他教育関連施設…………… 19
- 4 平成 27 年度の学校施設の整備・補修等…………… 19
- 5 平成 28 年度の学校施設の整備・補修等…………… 20

VI 学校教育

- 1 平成 28 年度三島市の学校教育…………… 21
- 2 遠藤奨学金について…………… 25
- 3 平成 27 年度就学免除・猶予・死亡児童生徒数…………… 27
- 4 平成 27 年度転入・転出児童生徒数…………… 27
- 5 平成 27 年度中学校卒業生の進路…………… 27
- 6 平成 27 年度就学奨励援助…………… 28
- 7 平成 27 年度日本スポーツ振興センター掛金
及び給付金…………… 28
- 8 学校給食…………… 29

VII 社会教育（生涯学習）

- 2 平成 28 年度の重点事業…………… 31
- 3 委員会・団体の構成…………… 32
- 4 生涯学習事業…………… 32
- 5 生涯学習推進事業…………… 32
- 6 家庭教育事業…………… 33
- 7 成人教育事業…………… 34
- 8 女性教育事業…………… 35
- 9 青少年対策事業…………… 35
- 10 青少年教育事業…………… 37
- 11 児童センター事業…………… 39
- 12 学校・家庭・地域連携協力推進事業…………… 40

VIII 文 化

- 1 平成 28 年度の施策の重点…………… 41
- 2 文化振興…………… 41
- 3 文化財保護…………… 43

IX 社会教育施設

- 1 三島市民生涯学習センター…………… 52
- 2 図書館…………… 55
- 3 公民館…………… 58
 - (1) 中郷公民館…………… 59
 - (2) 坂公民館…………… 60
 - (3) 北上公民館…………… 61
 - (4) 錦田公民館…………… 63
- 4 箱根の里…………… 65
- 5 市民文化会館…………… 69
- 6 郷土資料館…………… 72

I 市政のあらまし

1 位置・地勢・人口

(1) 市役所の位置

東 経	138度55分
北 緯	35度06分
標 高	24.9m

(2) 地 勢

東 西	11.107km
南 北	13.242km
面 積	62.02km ²

(3) 人 口 (平成28年4月30日現在)

男	54,574人
女	57,013人
計	111,587人
世帯数	48,454世帯

(人口、世帯数には外国人を含む)

2 沿 革

箱根西麓に位置する三島市は、気候・風土など自然条件に恵まれていることから、市内の各所で縄文・弥生文化の遺跡を見ることができ、約4千年前の縄文式住居跡や、さらに約2万7千年前(旧石器時代)の石器も発見されており、古代から人々の生活に適した所であったと言える。

天武天皇の飛鳥時代(680年)に伊豆国の国府が置かれ、奈良時代天平年間には国分寺・国分尼寺が建立されるなど、三島はこの地方の行政・教育文化・交通の要衝の地であったことがうかがえる。

源頼朝が、挙兵(1180年)に際し戦勝祈願をしたことで有名な三嶋大社は、鎌倉・室町時代、武家の崇敬篤く、また庶民の信仰をあつめたことで知られている。

戦国時代末期に築城された山中城は、秀吉の小田原攻めの際(1590年)に落城、現在は国指定の史跡公園として整備されている。

徳川時代には幕府直轄の天領となり、170年間三島に代官所が置かれていた。東海道とともに繁栄した三島宿は、品川・桑名と並んで五十三次の中でも大きな宿場の一つであり、最盛期には78軒の旅籠を数えた。さらに門前町としての性格もあって往時は繁華を極めたという。

幕末の頃、三島には十数校の漢学塾と相当数の寺子屋があった。明治5年(1872年)に学制が施行されると2校の小学校が設置され、翌6年(1873年)には現在の市域で6校を数えるに至ったことは、住民の伝統的な向学心の証であろう。

明治19年(1886年)には君沢田方郡役所が置かれ、明治22年(1889年)市町村制の施行により三島町となり、同22年(1889年)、県下で最初の公立幼稚園が三島・静岡・掛川に開園した。

大正4年(1915年)3月、三島町立図書館開館。大正

8年(1919年)から9年(1920年)に野戦重砲兵連隊が横須賀及び和歌山から三島に移転し、昭和9年(1934年)丹那トンネルが開通して三島駅が設置されると、宿場の疲弊により一時沈滞していた街にも活気が戻った。

昭和10年(1935年)北上村を編入し、昭和16年(1941年)には錦田村と合併して三島市が誕生した。昭和29年(1954年)には中郷村を編入して総面積62.13km²の市域となり、現在に至っている。

昭和32年(1957年)米国カリフォルニア州のパサディナ市と、全国で4番目の姉妹都市縁組を結び、国際化時代の先達として着実な交流を続けている。

昭和39年(1964年)三島・沼津地域に計画された石油化学コンビナートの進出を阻止。昭和44年(1969年)新幹線三島駅の開業等による経済圏・生活圏の拡大と相まって人口が急増、さらに、新幹線ひかり号の停車や、平成21年(2009年)7月の東駿河湾環状線一部供用開始、首都圏への直通高速バスの運行開始により、伊豆・北駿の玄関口、交通の結節点として、県東部の中核的都市として発展を続けている。

平成3年(1991年)4月、市制施行50周年を迎え、ニュージーランドのニュープリマス市との姉妹都市縁組を結び、さらに平成9年(1997年)5月には、かねて交流を重ねてきた中国浙江省麗水市と友好都市縁組を結んだ。

平成28年(2016年)4月には市制75周年を迎え、現在市内には、幼・小・中・高校のほか、大学院大学でもある国立遺伝学研究所をはじめ、日本大学国際関係学部・短期大学部、順天堂大学保健看護学部、放送大学静岡学習センター、佐野美術館等多くの教育文化施設が設置され、市民文化会館や市民生涯学習センターを教養文化の拠点として、せせらぎと緑と元気あふれる協働のまちづくりを目指している。

3 財政

平成28年度一般会計歳入歳出予算（当初）

（単位:千円）

（単位:千円）

歳入	
費目	予算額
市税	17,272,109
地方譲与税	267,001
利子割交付金	45,000
配当割交付金	130,000
株式等譲渡所得割交付金	130,000
地方消費税交付金	2,110,000
ゴルフ場利用税交付金	50,000
自動車取得税交付金	60,000
地方特例交付金	74,000
地方交付税	1,230,000
交通安全対策特別交付金	27,000
分担金及び負担金	502,023
使用料及び手数料	739,300
国庫支出金	4,947,363
県支出金	2,155,244
財産収入	60,060
寄附金	282,509
繰入金	282,006
繰越金	383,000
諸収入	1,829,185
市債	3,094,200
歳入合計	35,670,000

歳出	
費目	予算額
議会費	274,368
総務費	3,402,462
民生費	11,992,303
衛生費	4,288,527
労働費	381,071
農林費	326,408
商工費	532,285
土木費	4,066,687
消防費	2,296,724
教育費	4,366,750
災害復旧費	1
公債費	3,712,414
予備費	30,000
歳出合計	35,670,000

